

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第24回さがみはら森林ビジョン審議会		
事務局 (担当課)		環境経済局 経済部 津久井地域経済課 電話042-780-1401(直通)		
開催日時		令和3年2月4日(木)～2月25日(木)		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	5人(経済部長、津久井地域経済課長 ほか3人)		
公開の可否		可      不可      一部不可	傍聴者数	-
公開不可・一部不可の場合は、その理由		書面会議のため		
会議次第		議 事 1 令和元年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について 2 その他		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

( 審議を書面で行った理由 )

新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、議決の方法等について事前にとり決めを行い、書面により審議会委員等の意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

### 議 事

#### 1 令和元年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について

事務局より説明資料(資料1から資料4)及び意見を求める意見書の送付を行った。審議会からの評価・意見に対する、事業主管課からの対応内容の確認と市ホームページへ掲載する評価結果(案)について、書面により審議を行い、次のとおり意見があった。

#### 【「重点事項：その1」に係る審議会からの意見、質疑応答などの概要】

##### 事業コード3-1-1「(仮称)相模原市市民の森」整備事業

- 当面はソフト事業が中心になると思うが、事業を進めるにあたり、より多くの市民に参加いただけるようメニューを工夫してほしい。
- 市民の森予定地の石老山の山頂へのルートの整備費用は予算化されているのか。

令和2年度予算で計上している。相模湖地区まちづくり会議の皆さんと新しい登山道の調査及び選定を行った。今年度内に、登山道整備や案内看板の設置、周知用のチラシなどを作成し、4月からの供用開始を予定している。

- 一般市民の方から市民の森でやってみたい事など、意見を募集してみてもどうか。

市民の森予定地の復旧の状況を見ながら意見募集について検討する。

- 地域団体等との協働事業も大切だが、全国で実績を上げている森林整備、森林再生に特化した第三者機関をも巻き込んだ森林整備体験プログラムの検討も行っていただきたい。森林所有者を対象とした研修会、またオンライン開催なども含み、ソフト事業のメニューについても期待したい。

森林所有者等を対象とした研修会は、現場での実演も必要と考える。市民の森予定地の復旧の状況を見ながら検討する。

- 復興状況に留意し、(仮称)市民の森クラブのソフト事業の結果を踏まえて、地域団体と継続してほしい。

### 事業コード3 - 3 - 1 企業の森の拡大

- 「森林再生パートナー制度」は水源涵養林の再生だけでなく、「地球環境」といった大きな視点から取り組んでほしい。企業側にとってもPRに繋がり、メリットがあるのではないかと。また、事業所管課の対応における「森林を有効活用したメニュー」とはどのようなものが想定されるのか。

今まで「企業の森（本市型森林再生パートナー制度）」の具体的なメニューの検討までは至っていない。本市は昨年9月に「さがみはら気候非常事態宣言」を表明し、温室効果ガスの吸収源となる森林が担う役割は重要と考えている。森林の機能を発揮するには、継続した森林整備は必須である一方、整備費用等の課題もある。そのため「企業の森（本市型森林再生パートナー制度）」など、外部から森林整備費の一部を導入する制度について、他市町村の取り組み状況などの情報を収集しながら、メニューを構築して行きたい。

- 企業が「森林再生パートナー制度」を利用すると何ができるのか、どんなメリットがあるのか、SDGsや気候変動への取り組みで、参加しようと協力的な企業はあるはず。

県が実施している「森林再生パートナー制度」は、企業から県の行う森林整備等の費用の一部を支援いただき、間伐や枝打ち、自然観察などを行う「森林づくり活動」、会社の森として名前を付けることができる「ネーミングライツ」、支援をいただいた森林整備によるCO2吸収量を算定した「CO2吸収算定書」が発行されるほか、活動状況が県ホームページ上に掲載される。

- 今後益々企業が事業を継続していくに当たり、環境への配慮、環境活動への取り組みが、一般消費者からの支持を得て、企業評価、商品選択に繋がっていく時代である。企業の森に参画することがいかに企業にとって利点のあるものかを信念をもって訴えていく姿勢が必要と考える。早急に相模原市型の森林再生パートナー制度の制度化を期待したい。
- 相模原市型「森林再生パートナー制度」は、ネーミングライツの他、間伐体験など企業として実際にCSR活動ができるのか。間伐体験ができるのなら、その木材で木工品を製作するなど、メリットがあると良いのではないかと。

「間伐体験」+「間伐材の使用」について検討する。

### 事業コード4 - 1 - 1 さがみはら津久井産材素材生産量の拡大

- さがみはら津久井産材のPRに関して、展示会や見本市への出展が少ないように思う。ノベルティやパンフレットの配布だけでなく、さがみはら津久井産材を活用した製品の展示、販売会などをもっと積極的に行う考えはないのか。

市内各地域で開催されるイベントや、毎年11月に川崎駅前で開催される「川崎市木材フォーラム」への参加時に、椅子等の大型製品の展示なども検討する。

- 地域産材を使った、シンボリックで有益なものと良いのではないかと。藤

野近辺では、薪ストーブの利用が多いので、薪として活用したい世帯が多い。

- 「森林環境譲与税を活用した事業の充実を図る」とあるが、施策案はできているのか。

森林調査や森林維持管理等の「森林整備事業」、林業機械購入や資格取得時の林業事業者への支援として「人材育成・担い手の確保事業」、また、さがみはら津久井産材の利用拡大を目的とし、公共性の高い建築物や家づくりに対し支援を行う「木材利用促進・普及啓発事業」など、大きく3つの事業に分け取り組んでいる。

- さがみはら津久井産材のロゴが出来上がり、紹介パンフレットや商品カタログが一新されることで、市民のみなさんに広報できるため期待する。

#### 事業コード5 - 1 - 1 水源の森林づくり事業

- 林業に従事する人材の育成も重要だと思う。

今年度より林業振興を図る事を目的に、人材育成・担い手の確保にかかる補助制度を施行した。補助の対象は、チェーンソーなどの林業機械購入費、また機械操作などの資格取得費とし、これまで(2月末)に、5事業体、10件の補助金を交付している。

- 災害に強い山づくりを踏まえる事は可能か。

森林保全と防災面も考慮した森林整備を行う事は可能と思われ、理想と考える。

- 森林所有者に森林整備の必要性について周知はどのように行っているのか。また、周知に対し、回答はどの程度もらえているのか。森林所有者とのコミュニケーションが上手く取れていないような現状があるとしたら、その方法も再考が必要とも考える。

現在は、市ホームページでの周知、または以前に協力協約を締結した森林所有者へ、別の土地での施業について確認をしている。今後は、これまでの取り組みに加え、新たな締結先の開拓に向けた効果的な周知方法について、検討、実施していきたい。

#### 事業コード5 - 1 - 1 地域水源林整備事業

- 「観光的ポテンシャルの高い立地特性を生かした魅力的な森林づくり」とはどういうことなのか。

高尾山から陣馬山へ向かう登山道は、ハイカーに非常に人気のあるルートになっている。このルート上で針葉樹の皆伐後、広葉樹を植林し、四季により葉の色づきなどを楽しめる森林づくりをしている。

#### 事業コード5 - 1 - 1 地域水源林保全・再生事業

- リニア事業の工事が進んでいく中で、水源環境が変化しないか慎重に観察することが大事だと思う。
- 計画の遂行に向けて、引き続き、適切な森林整備の実施に努めていただきたい。

【「重点事項：その2」に係る審議会からの意見、質疑応答などの概要】

事業コード3-3-1 市民協働推進事業（森林活用モデル検討事業）

- 市民の方から意見を公募してみてもどうか。  
市民の森予定地の復旧の状況を見ながら、意見募集について検討する。
- コロナ禍の為、すべての事業が予定どおり振興できない状況にあると思うが、企画や準備は進めていただきたい。
- 引き続き地域団体等との協同事業も大切だが全国で実績を上げている森林整備、森林再生に特化した第三者機関をも巻き込んだ森林整備体験プログラムの検討も行っていただきたい。
- 復旧状況に留意し、（仮称）市民の森クラブのソフト事業の結果を踏まえて、地域団体を中心に多様な団体との連携で事業を進めていただきたい。

事業コード4-1-1 さがみはら津久井産材利用拡大協議会の設置・運営支援

- 具体的な事業、情報、意見などを知りたい。  
来年度、「さがみはら津久井産材利用拡大協議会」のホームページを立ち上げる計画がある。その中で会議録についても、可能な範囲で掲載し、情報を発信して行けるように、指導、支援をして行く。

事業コード4-1-2 公共建築物等への利用促進

- さがみはら津久井産材製品フォトギャラリーは、平成29年11月改定版から更新されていないのか。  
さがみはら津久井産材利用拡大協議会の今年度事業で、新しい製品カタログを作成しており、完成後、市ホームページへの掲載を予定している。
- 市の各部局に「さがみはら津久井産材」の利用促進について十分周知されているが、発注の仕方など手順が定まっていないと思われる。受入側もその手順に従い対応することが必要と思われるため、検討いただきたい。  
「さがみはら津久井産材」の利用促進と併せ、導入や発注の手順についても周知を図る。
- 公共施設や庁内備品などのほかに、保育園・幼稚園・小学校・中学校などの学校施設にも利用促進を進めて頂きたい。  
「さがみはら津久井産材」の更なる利用が図られるよう、周知を図る。

事業コード4-1-3 地産地消の促進

- さがみはら森林情報館の web サイトを見たが、更新されている形跡がない、最新の更新日がいつなのかわかるようにしてほしい。

さがみはら森林情報館は、レイアウトを含め変更を考えていたが、業者への委託が必要と判明したため、掲載内容の整理のみを行った。近日中にホームページ更新依頼を予定している。

- 現状のさがみはら津久井産材生産量と利用状況はどのくらいなのか。流通システムは。

さがみはら津久井産材生産量は令和元年度で3,981m<sup>3</sup>となる。また利用状況については、市役所内の利用状況のみの把握となっている。

- 「地域型住宅グリーン化事業」の周知を更に進めるとともに、「さがみはら津久井産材の家づくり」などの利用促進のためには、工務店側だけではなく施主側にも広報することが重要と思う。工務店側としては既に木材供給のルートがあり、さがみはら津久井産材を利用する選択肢はないが、施主側からさがみはら津久井産材を使用してほしいという依頼があれば、使用せざるを得ない。

さがみはら津久井産材を使用した新築や改築をする施主に対し、ポイント制でカタログから家具や木工品を選びプレゼントする仕組みや、また、相模原市に誕生する赤ちゃんに、さがみはら津久井産材の無垢の玩具をプレゼントするなどの仕組みづくりを構築してはどうか。

「さがみはら津久井産材の家づくり事業」については、見直しを予定している。現在は見学会を開催する工務店に対し補助金を交付することとしているが、さがみはら津久井産材の使用希望は、施主からの意向がないと利用は進まないため、施主への補助金交付へ見直す予定である。

#### 事業コード4-1-4 再生可能エネルギーの利用促進

- 協議会だけではなく、木質バイオマス、再生可能エネルギーに関わる企業にも参加して意見や具体例を聞くのが良いのではないか。

今年度、市では木質バイオマス導入の検討にあたり、森林調査会社から講師を招き、導入に際しての利点や課題等について勉強会を実施した。有知識者からの助言等は重要と考えている。

- 薪市場、チップ市場などはできないか。

薪、チップ市場に限らず、山中に残置されている間伐材を山から下ろし、活用できる環境（加工工場含む）について、流通ルート構築も含め検討を進める。

- 木質バイオマス発電建設を急ぎ、エネルギー資源を他から入手して運営しているところも多々出て来ていることから、そうならない様に原料調達インフラ整備との平行進捗が必要である。

- 持続可能な社会の実現の取組みとして、利用方法をしっかり調査し、導入を考えて頂きたい。

事業コード4-1-4 木材の多様な利用のための技術・商品開発の促進

- さらに広い業種や、他地域からの参考例、アイデアを求めてはどうか。検討する。
- B材、C材の活用策を1件ずつでも具体化していく取り組みを、力を合わせ取り組んでいくことが必要と思う。
- 木質バイオマスだけでなく、商品開発等の様々な視点での活用方法を引き続き検討いただきたい。
- 森林環境譲与税の活用について、森林整備などの入口のみでなく、出口の商品開発等にも引き続き検討を進めて頂きたい。
- コロナ禍にあって、観光産業は大きなダメージを受けている。しかしながらこうした状況下ではあるが、近場や地元に向けて楽しむ「マイクロツーリズム」には関心が集まっており、アウトドアレジャーとしてキャンプの人気の高まっている。

本市でもキャンプ場利用者が増えており、観光協会としても今後、市内19か所(うち3か所は休業中)のキャンプ場のPRに力を入れていく方針としている。

市内のキャンプ場は、河川に近く「焚火」ができることが魅力の一つとなっており、最近の話題としてキャンプ場の経営者から、利用者が増えたことで「薪」の需要が増えており、価格が上昇して困っているとの話を聞いた。

前回の審議会でも、市内の小中学校に薪ストーブを導入した場合を想定したご意見があったが、木材の流通に関して上流と下流、供給と利用側の連携が取れる取り組みができないか。例えば、キャンプ場の「薪」について「薪づくり体験」をイベントで実施し、その「薪」をキャンプ場に安価で販売することができれば、低質材の利用拡大、地産地消に繋がると思う。

また、イベントを打つまでもなく、素早く「薪」を供給できればビジネスチャンスになると思うが、必要な時に必要なものがすぐに供給できる仕組みができないか。

最後に観光の視点からの意見だが、森林体験を市内観光のコンテンツの一つに磨き上げていくことも、森林に対する理解を深めることに繋がると思うので、関係者と共通認識を高めながら、今後検討していければと考えている。

学校と連携した薪づくり体験は、地域産材及び地産地消を学ぶ場として有効と考える。また、観光事業者等の異業種との連携も利用拡大には有効であることから、様々な角度から検討を行っていきたい。

【「重点事項以外の取り組み」に係る審議会からの意見、質疑応答などの概要】

事業コード2-1-1 体験学習推進事業

- 炭焼きなど、里山の暮らしを継承していくことはできないか。ハイキングや植

樹のイベントなど、子どももいっしょに参加できるイベントが増えると良いのではないか。

事業コード 1-2-1 市民協働推進事業（森林活用モデル検討事業）

事業コード 1-2-2 市民協働推進事業（森林活用モデル検討事業）

- 引き続き地域団体等との協同事業も大切だが全国で実績を上げている森林整備、森林再生に特化した第三者機関をも巻き込んだ森林整備体験プログラムの検討も行っていただきたい。

事業コード 2-1-1 林業団体助成事業（相模原市林業振興補助金）

- 市内素材生産事業者が実施する、森林の大切さをしてもらうことを目的とした、都市部と山間部の小学校交流の具体的な内容は。

茅ヶ崎市の小学校と青根小学校の学校交流事業として、市内素材生産事業者が主催し、森林散策や水源の確認、間伐見学など通じて、森林の役割を学ぶ機会として実施している。

以 上



## さがみはら森林ビジョン審議会 出欠席名簿

( 5 0 音順 )

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	北村 美仁	一般社団法人 相模原市観光協会 専務理事		出席
2	小山 美佳江	公募委員		出席
3	佐藤 治男	津久井郡森林組合 代表理事組合長	副会長	出席
4	杉本 貴広	有限会社 杉本林業 取締役		出席
5	中村 行宏	公募委員		出席
6	淵上 美紀子	一般社団法人 さがみ湖 森・モノづくり研究所 代表理事		出席
7	松本 武	国立大学法人 東京農工大学大学院 農学研究院 准教授	会 長	出席